



あなたにぴったりの湿地は

あ かん こ
阿寒湖



こんなところ ↓

阿寒湖



野竿 陽平（自然公園財団阿寒湖支部）



あかんこ おあかんだけ
阿寒湖と雄阿寒岳

阿寒湖はマリモなどの絶滅のおそれのある種や群集を支えている湿地であることや、亜寒帯性針広混交林という特定の生物地理区を代表するタイプの湿地であることが理由で、2005 年 11 月 8 日にラムサール条約に登録された。

簡単に言うと、阿寒湖は火山の噴火によってつくられた多様な環境をもち、多様な生物が見られる湿地だということが評価されたのである。

阿寒湖の成り立ちは、まず、阿寒火山の噴火により約 15 万年前に今の阿寒湖のもとになる湖が形成されていたと考えられ、その湖の内側にフレベツ岳、フップシ岳、雌阿寒岳が形成され、湖の南西部は完全に埋められ、湖の面積は大きく縮小したと考えられている。一方、湖の中央部から東側も、雄阿寒岳が形成され、約 2,500 年前に現在の阿寒湖の形となったと考えられている。



阿寒湖周辺図

いくつかの火山活動によって形成された阿寒湖は、他の湖に比べるといびつな形をし、多くの湾^{わん}がある。その中のチュウレイ湾とキネタンペ湾には、世界でもここだけにしか生育していない球状マリモ^{ちやくせい}があり、また、阿寒湖の他の場所には着生型^{ふゆう}、浮遊型のマリモも生育し、特別天然記念物に指定されている。このことから阿寒湖にマリモが生育しているからラムサール条約に登



観光遊覧船

録されたと思う人もいるかもしれないが、阿寒湖の多様な環境の中に、多様な生物がみられ、その中にマリモが生育しており、マリモをはぐくむことが出来るこの阿寒湖全体が評価されていると考えている。

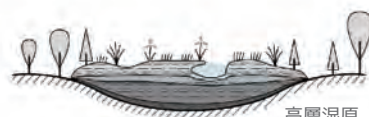
阿寒湖にはマリモ以外にも、ヒメマス（→p.37）やアメマス、周辺の森にはヒグマやエゾシカなどの哺乳類^{ほにゅうい}約 24 種、クマガラなどの鳥類約 65 種が生息している。



マリモ

このように自然豊かな阿寒湖では、漁もおこなわれ、ワカサギ、ヒメマス、ウチダザリガニ等が水揚げ^あされている。ワカサギ漁の時期にはワカサギの佃煮^{つくだに}を作る甘辛い匂^{あまから}いが阿寒湖温泉内^{にお}にたどり、とても阿寒湖らしい香りがする。ヒメマスやウチダザリガニも阿寒湖温泉内の飲食店で提供されており、料理を食べた観光客は舌鼓^{したつづみ}を打っている。その他にも、阿寒湖では遊覧船やモーターボートが走り、観光客が阿寒湖の美しい景色^{たんのう}を堪能^{たん}している。

阿寒摩周国立公園^{ましゅう}の阿寒地域の自然^{しょうかい}を紹介している阿寒湖畔エコミュージアムセンター^{こはん}では、修学旅行生^{しゅくはく}や宿泊研修^{いっしょん}などで訪れた学生や一般の来館者に、阿寒湖の自然やマリモ、ラムサール条約についてガイド^{じっし}を実施し、阿寒湖の自然環境について知識を深めてもらっている。



高層湿原